

## ≡ 質 疑 応 答 ≡

質問は、東京都千代田区大手町 1-3-4, 気象庁内  
日本気象学会天気編集委員会宛、どうぞ

問：外国の気候（気象）を知りたいので、比較的容易に利用できる資料（文献）を教えてください（気象庁 A 会員他）

答：近年、海外旅行や貿易など外国の気候（気象）を知る必要が多いのか、あるいは異常気象と関連があるのか、この種の質問をよく受けます。その目的と必要とする情報の程度によって答が違ってくるのですが、ここでは、大づかみに二、三の事項を答えておきます。

まず会員が専門的に研究に使われるものとしては、土屋巖（1968）：気候資料と気候図および気候図帳、気象研究ノート 98 号、——（1970）：気候資料について（1）（2）、天気 17 巻 1 号、4 号に詳しい解説があるので、それを参照されることを希望します。なお天気 17 巻を入手できない場合には、“気象学への手引”（日本気象学会 1971）に同じものが収録してあります（学会事務局へ申込み送料とも 400 円で入手できる）。

一般に比較的容易に利用できるというと、まず気候表としては、気象庁（1967）：外国気候表があります。これは観測技術資料第 31 号として刊行されたもので、世界各地の 1,000 地点の気圧・気温・湿度・降水量の月および年平均値を収録してあります。もっと簡単なものでは東京天文台編：理科年表があります。これは丸善発行ですから書店で入手できます。全部で 448 地点の気温・湿度・降水量の月平均値が掲載されているので、ちょっとしたことにはこれで間に合います。

外国で刊行されている気候資料では、World Weather

Record (Clayton, NOAA) や Climatic Data for the World (US. GPO), Tables of Temperature, Relative Humidity and Precipitation for the World (英国気象局) などがよく知られていますが、わが国では気象庁や大学などを除くと、一般の利用は必ずしも容易ではないと思います。

異常気象を調べる手近なものという、日本気象協会発行の月刊誌“気象”に気象庁天気相談所で毎月まとめたものが載っています。なお、気象庁では長期予報課が世界の異常天候の監視を正規の業務として開始しているので、近くその第 1 回の報告資料（異常天候監視報告書）が刊行される予定です。

なお、単行本としては、畠山久尚監修の“アジアの気候”、“アフリカの気候”が古今書院より刊行されていて、非常に詳しい解説と資料が載っています。他の地域についてこれに匹敵する和書はまだありませんが、最近、東京堂から出版された、高橋浩一郎編：“世界の気象”（近く本誌に紹介予定）は、世界各地の気象を知る上に参考になる読物です。

外国の気候誌としては Kendrew の Climate of the Continents が定評のあるところで、このほか世界各地の特徴的な気候現象の解説を中心に書かれたものに Trewartha の Earth's Problem of Climate があります。

世界の気候資料というこの他に気候図や天気図などもありますが、これについては、前記の土屋の文献を参照して下さい。  
(河村 武)